

拝啓 今年も早や9月下旬となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。今年の夏は猛暑続きでしたが、やっと猛暑も終わり、秋のさわやかな日が多くなってまいりました。皆様お元気でお過ごしのことと思います。先日行きました浜離宮では、キバナコスモス、コスモスがきれいに咲いておりました。

今回は、カウマン夫人編著の『日の出に向かって』（日本ホーリネス教団出版部）の10回目ですが、10月16日のところには、次のように書かれています。

「老齢は青年時代に劣らず、チャンスです。たとえ形は違ったとしても、たそがれの光が消えゆく時、空が昼間見えない星でいっぱいになるように。

ヘンリー・W・ロングフェロー

年を取ったからと言って、気後れする必要はない。あなたが一つの命からもう一つの命へと「歩む」時、あなたの本当の力は衰えない。」

今井館の集会室をお借りして第2、第4日曜日に開いている高円寺東集会では、基本は、小西芳之助先生の残されたパウロ書簡の説教テープを聞いております。いよいよテモテ後書に入り、後はテトス書だけになりました。それと並行して、学期の最初と最後は、石館守三先生が残されたヨハネの黙示録の講解説教テープを聞いてまいりました。その黙示録講解も、9月9日に第22章の講解説教を聞き、終了しました。

黙示録については、ドイツの画家アルプレヒト・デューラー(1471-1528)による木版画のシリーズがあり、何枚かはコピーを取って説明用に配っておりました。たまたま、宮田光雄先生の新刊『ルターはヒトラーの先駆者か』（新教出版社）を頂いて、その中に「デューラーと宗教改革」という1章がありました。それによりますと、デューラーは非常に信仰深い人で、ルター（1483-1546）の著作をよく読み、自分の絵をルターに進呈したとあり、ルターを非常に尊敬しておりました。その文章に触発されまして、デューラーの黙示録のすべての版画（15枚）が載っている本はないかと、東大図書館、東京都中央図書館で探しましたところ、一冊だけ発見し、デューラーの黙示録の全版画をコピーし、集会の皆様方には配ることが出来ました。

ルターとデューラーは、デューラーの方が12歳年上で、16年早くなくなっていますが、同時代人です。

9月7日、川口重雄先生主催の田園調布学園見学会に参加して、第一生命のマッカーサー記念ルームを見学してきました。昭和21年1月24日、時の総理大臣幣原喜重郎は、そこで3時間マッカーサーと会い、天皇制の存続と戦争放棄をお願いしました。そのことから憲法9条が産まれたわけですが、感銘を新たにしました。

季節の変わり目、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。

平成30年9月25日

山口周三

エンカウターの読者各位